

2 働き方改革の必要性(介護離職)

介護離職 (介護のため離職すること)

介護離職者 10万人
企業・労働者・社会の「三方損」

「市在住の公務員、A(男)は3年前に一人の母が倒れてから、板挟みに直面した男だ。妻も続けてきた。の妻にも要介護する」のが夫婦、周囲の親にもたない。Aは頭張ってきた。太忙しかった。は朝7時、その事の世話や書類のレスに日々埋まらせる。中間管では遅刻や急な身が狭く、職場休むのか「働きかた」など言かもした。その勤対象者、遠方は「辞めろ」の再び母が倒れて介護は限界に達にも病院から白旗を人保健康保険介しても、人に回す。に中心とし、リを提提す。は3月に定年を1年契約の再任する。「老健がなると」などで「と振り返る。就業構造基本調査2006年10月の介護離職者数0.0人、離職者だが「潜在的に



朝沢さんは毎日、母親が入浴する施設で食事を手配。(山形県政府提供)

親の介護と仕事両立悩む

会社員 次(つぎ)の生き方

—ロングライフ見据えて—

その母が認知症と診断されたのが10年。「その後2年間の在宅介護は地獄の日々」。意思疎通のできない相手に怒鳴り散らした。パート勤務の妻は介護には協力的。息子の自分が担わなくてはならなかった。

「救いになったのが、男性介護者の会だ。NPO法人介護者サポートネットワークセンター・アラジン(東京・新宿)が開く「ついでに」で思いのたけを話した。同じ悩みを持つ人についてもらうだけでも力になる。「柳沢さん。経験談から知恵も授かった。「真つ暗闇でも光と星とがある」とわかれれば、注意して進める。できることをやるしかない」と胸をぐくめた。

「仕事と育児・介護の両方支援を企業に提供する「サテライト」企業。W・W(東京・新宿)は30代から介護への心積りを重要視する。「前の心積りと相談で準備始め、家庭・地域・サービスなどすべてを動員して切り切ることを決意すべし」と山崎清子社長は説く。「会社員 次(つぎ)の生き方」

早めに準備、離職回避を

- 親が65歳になったら介護への備えを
1. 家財のこと
親の介護方針・体制・役割分担について家族や親戚などと話しておく
 2. 仕事のこと
会社の介護支援・休業体制を知り、両立のために早から仕事の仕方を工夫する
 3. 親のこと
健康状態、病歴、かかりつけ医を知り、親に介護の希望を聞いておく
 4. 介護のこと
親の経済状態を把握し、各自自治体の地域包括支援センターで介護情報を得ておく
- (注) www.wがまとめたリーフレット「仕事と介護の両立・事前の心構え」による

少子化による一人っ子の増加
(合計特殊出生率 1.42)

男性の生涯未婚率の増加
(30歳台男性未婚率 35.6%)

75歳以上の30%が要介護認定
(団塊の世代が70歳代に突入)

ここ数年で、ミドルマネジメント層の4分の1から3分の1に時間制約が発生